

関西ロータリー研究会

第75回 例会記録

『いろんなクラブに、ロータリアンも色々』

講師

第2660地区

ガバナー補佐

大川進一郎 氏

2005年7月30日 阪急ターミナルビル

関西ロータリー研究会

第 75 回 例会記録

「イロンなクラブに、ロータリアンもイロイロ」

基調講演 第 2660 地区ガバナー補 大川進一郎

[大澤]

第 75 回目の関西ロータリー研究会を始めさせて頂き
ます。大変暑い中をお運びいただきまして誠にありが
とうございます。今日は大東 RC のガバナー補佐大川さ
んにお見えいただきましてお話を頂戴することになっ
ております。ロータリーも 100 年経ちました。色々な
問題が山積しております。中でも会長や幹事になられ
た方々に対して、今日は大川さんからいろいろなアド
バイスを頂戴しそのチェックポイントを順を追って解
説していただきます。その他いろいろとお話が続くか
と思います。大川さん、基調講演をよろしく願いま
す。

[大川]

皆様こんにちは。ただ今紹介に預かりました大川で
ございます。6 月までガバナー補佐を一年間やらせて頂
いておりました。名簿をみますと同期のガバナー補佐
さんが、西山さんはじめ坂本さん川上さんの三人が居
られますし、パストガバナーの吉川さんのお顔も見え
ますし、また後程私の喋ることに対して、「いやそうで

はない。」という意見も色々あると思いますので、論戦をしていただき、楽しんでいただきたいと思います。

私はこの一年間色々感じたことを 30 項目箇条書きにいたしました。これについて述べたいと思います。実はガバナー補佐になったのは、自分の大東 RC から推薦されたのではなく、大東中央 RC からなのです。

ガバナー補佐制度ができてそれぞれの組の中から出すと決まりました。それは設立の順番ではなかった。最初は寝屋川。これは 11 クラブのうちの 4 番目にできた古いクラブでよいのですが、2 番目一昨年は、寝屋川東。これはまだ 3,4 年しか経っていないのでできないということで、交野 RC の方にやってもらうことになりました。そして 3 番目が大東中央。これもまた 10 年経っていないからできませんということで、大東 RC と話し合いをもって、最後には私が大東中央 RC を作った時のガバナー特別代表を勤めておりました関係で、私がやることになったのです。もし設立の順番でしたら 11 クラブありますから、一番新しい 3 年しか経っていないところでも、11 年経ったら 14 年経験ができるのだから、ガバナー補佐が出せると思うのです。できないところは親クラブがやるとか、そのまた先の親がやるとか、そういう感じでやっていくのではないかと思います。

私は 1989, 1990 年度の会長をしていましたので、会長をやってから十数年経っています。私はもう引退する年なのに今さら勉強というのもなんだから、良いことを言っておこうと思いました。しかし昨年 7 月前に新旧合同幹事会がありまして、そのときにあるクラブの幹事が、ロータリーというのは地区が中心ではなくクラブが中心といわれているのだから、と何でも有りき的な言い方をされました。若い幹事がそういうことを言っているのを聞いて、これは待てよ、やはりロータリーは RI の傘下にありまして、そういういろいろなルールの中の一つなのだから、それを逸脱して何でも有りきではおかしいのではないかと思いました。

そして補佐になった時に、そこのクラブに定款・細則と活動企画書を見せたいとお願いしました。そうすると定款・細則はない。古いクラブなのになんかおかしい。そして他のところも全部あたりましたら、確かにないところが多いのです。そして「定款というのは 3 年ごとに変わるのでしょうか。定款の内容をクラブで勝手にいじるわけにはいかないでしょう。だからこのままでいいでしょう。」という言い方をされるのです。確かに書くのは定款の場合は、最初の名称のところとクラブの所在、地域の二つを書くだけです。あとは守らなくてはいけないのですが、全然定款がな

い。だから3年ごとに変わるのを知らない人が多いのです。

大変恥ずかしい話ですが、大東RCで、手続要覧2004年を買っている人は何人か事務局にチェックしてみたら、なんと6名だけでした。会長、幹事、エレクト、副会長、私、後もう一人です。だから役でない人は買っていないのです。恥ずかしくなってきました。他のクラブはわかりませんが、買わなかったら、3年ごとに変わることを知らない。新人会員、会長、幹事は御存知でしょうけれど、それ以外の人には知らないことになる。カルチャーショックでした。

ずっと調べていくうちに、これもロータリーかなと思ひまして、今回のお配りしたプリントも「イロンなクラブに、ロータリアンもイロイロ」名付けました。いろんなクラブに私が話したことに異論があるでしょうということで名付けました。だから後程のフリーティングの時間にいろいろお話をしたいと思います。

1番目の「ガバナー公式訪問クラブ活動計画書は誰の為に作るのか」。新年度になって、私が会長の時には、第一回目の例会でクラブ活動計画書を出しました。これは去年の宮田ガバナー公式訪問概況報告書です。しかしこの計画書が出てくるのが遅いクラブが多い。私の時は一番遅いところが12月でした。「それまで来る

な」「いや行きます。」といろいろしながらやっていたのですが、なかなか出してこないのです。だからこれはガバナー公式訪問と書いてあるから、ガバナーが来られた時に間に合わせれば良いのだというのが大半なのです。だけど、実際は活動報告書になっていますが、計画書もあるのだから、それはガバナーに見せるのではなくて、自分達のクラブのために、この中にはスケジュールなどもあるわけだから、これはやるべきであると思ったのです。「これは、昔から慣例です。」とそういう言い方で、残念ながら歴史の古いRCにそういうところがあって、なかなか出してもらえなかった。

だけど、活動計画があるでしょ。コピーでよいので早く出して欲しいと要請し配って頂いた。そして卓話のスケジュールも早目に出しておかないと、自分が突然あたっても何を話したらということになるのだから。活動計画書は誰の為に作るのかというのは、やはりクラブの為に作るものである。ガバナーが来られた時に合わせたりするものではないと私自身は思っております。だからちゃんと準備期間があるわけですから最初にやるべきである。

地区でクラブ協議会がありまして、それから 3 週間以内にクラブ協議会を開くということになっております。その時に各委員長に、自分としても、その 3 週間

の範囲内で来年度はこのようになるのだから、RI の方針が大体決まって、地区の方針も大体いわれた、それをもって皆さんにこういう形でやって欲しいということをお願いして、5 月末にまとめて、6 月中に校正し、印刷し、7 月の初めに出せるのではないかと思います。

2 番目の「クラブ定款のないクラブがある」。これは最初にも話しましたが、私が一番初めにカルチャーショックを受けたのがこのことでした。定款は 3 年ごとに変わって、それは変えられないのだから、そのままでもいいでしょうといっても、他のクラブは知りませんが、私のクラブは 6 名しか買っていない。ということはほとんどの人は新しいのを見ていない。また事実、私がクラブ協議会をやりました時に、年配の方、以前に会長などをやられたような方がお手を挙げて「こうでしょう。」といわれましたが、「実はそれは 11 年前に変わりました。」といったことがあります。昔のことはよく覚えておりますが、新しく変わったクラブ定款の部分は御存知ないところがあるのです。

ただ、これらは後のフリートーキングでもよいのですが、書くところは、名称（大東ロータリークラブなど）、クラブの所在、地域。ここが今までは区域になっておりました。先程大澤パストガバナーにお聞きしますと、区域は英語でテリトリー、所在、地域は口

一カリティーとおっしゃっていました。今でもロータリーの名簿や概況報告書の一番初めを見ても大体区域のままになっております。所在、地域に変わっていない。例えば大東市なら大東市周辺でもそれに含むのだ。それはいいのですが、大東市と書かれている場合と、大東市及びその周辺と書かれている場合の 2 種類がある。どちらが正しいか、井上さんに後程言って頂ければはっきりするでしょう。

例えば守口市。ところが名簿を見たら守口ではなく、枚方市の人や工場は門真市にあって、会員は守口に入っている。このように住所も職場も違うところになっているのに、クラブの所在地は守口市になっているのはおかしいのではと私は疑問に感じた。後程この件も井上委員長の方からお答えいただきたいと思っております。ですから、3 年ごとに変わりますけれど、変わることを皆が御存知ない場合があるので、細則は 3 年ごと毎回印刷されているところもございしますが、定款は作っておられないところが大半。11 クラブのうち 10 クラブが作っていなかった。だからここで申し上げました。

3 番目「クラブ細則を 3 年毎改訂していない。」先ほども申しましたが、3 年ごとに変わっているのですが、定款・細則が印刷されていないということです。だか

ら会長や幹事だけは御存知ですが、「これが私どもの細則です。」と見せられるのですが、実は古いものをそのままおいておかれているところがあります。やはり3年ごとに変わるのですから、これをやはりロータリー情報委員長または規定委員長が説明する機会を与えることが、卓話の時やクラブ協議会の時にお話をするのが筋ではないかと思いました。

4番目「クラブ細則にあって、クラブ組織運営上ない。」これはほとんど標準クラブ細則をそのまま採用されていますが、「これが私どもの細則です。」とだされたものと、実際の組織図を照らし合わせますと、全然違うのです。小さなクラブの場合、広報と会報はいっしょになっているところがあるが、クラブ細則では別々になっているのです。また自分クラブ独自で作っているところは、この任務というところが十分に書かれていないところがある。標準クラブ細則には載っておりますが、説明が書かれていないところ、人間尊重、共同奉仕委員会とかがないクラブには多いが、必要なものは抜いてはどうですかと指導いたしました。

5番目「クラブ細則になくて、クラブ組織運営上ある。」クラブ独自でやっておられることに対して、それぞれクラブ独自のクラブ細則に載せなくてはいけない。組織上存在し、細則にないものは指摘させて頂きまし

た。

6 番目「クラブ定款・細則をクラブ活動計画書の中に綴じこんでいる。」私どもの大東 RC の場合は 3 年ごとに変わる定款・細則を別の一冊として印刷しております。大体毎回 70 万円ぐらい費用がかかります。従いましてこれが負担だという会計の声もあります。私どもの守口イブニング RC、枚方くずは RC でしたか、クラブの概況報告書の中に定款・細則はなかったのですが、細則を綴じ込んでいる場合がある。これは印刷場に出す場合もあるけれど、週報などクラブで独自でつくったりされている。それと同じように自分達でパソコンでやっている場合もあります。原稿があるわけですから、そのまま印刷してしまう。これはよいことだと思います。3 年ごと作ると 70 万円。それを独自で概況報告書の中に入れてしまえば、少し枚数は増えますけれど、毎年定款・細則を入れておけば、手続要覧を買わなくても、本当は買って頂きたいですけれども、なくても定款・細則がみれる。よいことだと勉強になりました。

7 番目「地区組織にあって、クラブその委員会がない。」クラブの場合、広報と会報がいっしょになったとか委員会が減っている場合があります。例えば世界社会奉仕というのはクラブにない委員会、そういったも

のがない組織がありました。ただ地区には社会奉仕委員会があるのですから、その場合は地区の委員長は熱心ですから、年に最低でも2回召集をかけられます。そのときにクラブにその担当者がいないので、誰も行かずに欠席だということになる。担当がなくとも、例えば国際奉仕委員長が兼務、ロータリー財団委員長が兼務するという形でも結構ですから「～担当」という形を決めておけば、委員会を作らなくても結構ですから、問題は解決すると思います。

8 番目「地区組織になくて、クラブに委員会がある。」これは逆の問題です。例えば交通問題特別委員会というのが当 2660 地区にございました。廣瀬パストガバナーが提唱されたのですが、これが目的を達成したということで、地区にはなくなりました。しかしクラブには相変わらず存在すると思っている。ですから常に地区の情勢はどうなっているのか、委員会がなくなったら、なくしてもよいし、クラブ独自でやるのだというような形でもいい。だから常にクラブの会長、幹事は地区の委員会組織がどのようになっているか見ておいて、独自で判断する。いつまでも嵐の糸がきれた形で存続するということがありますので、常に地区とクラブとの委員会の擦り合せはすべきではないかと思えます

9 番目「手続要覧は会長・幹事と新入会員のみに配布」これは私どもの例を先ほども申しましたが、手続要覧を6人しか買っていない。あるクラブの幹事もおっしゃっていましたが、「仲良しクラブ的なクラブで、これではRIの傘下ではない」。私もそう思います。少なくともこれを読んで、ロータリーの方針を知りながら運営していくべきではないかと思えます。ちなみに皆さんも御存じかとは思いますが、手続要覧は7ドルです。だからできれば、会費徴集の時に調整して、会費の中から全員に配るシステムに、「ロータリーの友」みたいに、そういう形で本当は注文されたらどうかと思えます。またクラブで手続要覧をもっている人が何人いるか一度チェックされたらいかがかなと思えます。

10 番目「会長・会長ノミニー・幹事・SAAは理事か役員か。」これも議論の対象になるかと思えますが、定款・細則には理事会のメンバーの中に会長、幹事および何名の理事と書かれています。ですから理事と役員とは分かれて書かれているのは私自身は別だと思っています。いや理事会に来るのだから全員が理事だといわれているクラブもある。私どもの11クラブのうち8クラブが理事役員というように区別させていない。これについてここでも議論していただきたいと思えます。

11 番目「直前会長や元会長は理事であるべきか。」

手続要覧には書いていませんが、クラブ細則には直前会長も理事に加えると書かれています。大東 RC の場合はそのようなことをすると姑が入ってくるようなものだから、理事会が大変だということで、会長を終えると理事会には参加しないことにしています。そうしないと院政を敷かれたみたいになるので。私が会長の時、「私は会長を 1 年しかしませんし、後に院政を敷くことは考えていません。1 年だけ私の思い通りにやらせてください。」と初めに歴代の会長をまわりました。しかし中には直前会長は入っているし、歴代の会長も理事会に名前が入っている。しかしそういう人が入っていると新しいことをやろうと思っていてもやりにくいのではないかと。大東 RC の場合は、会長の翌年は規定委員長を、幹事の翌年はロータリー情報委員長をする形になっています。しかし細則には直前会長も歴代会長も理事の中に入っているとになっています。では歴代会長は、理事か理事ではないか。理事になっているところもあるし、オブザーバー的にしているところもあった。というのは私が思うに、歴代の会長全員を入れるなら、別であるけれども、一人だけ入れると偏りが生じるのはと思う。大東 RC の場合は、特別、緊急の場合は歴代の会長を召集して意見を聞く。次年度のクラブ委員長、クラブ奉仕委員長、つまり副会長を選ぶときには歴代

の会長の意見も聞く。このように諮問機関というような形でやっています。

12 番目「副幹事・副 SAA は役員か。」役人の一部に入れているところがあります。定款・細則には理事会に入れてもよいが発言権はないというぐらいですから、役員ではなく、オブザーバーではないかと思えます。

13 番目「副 SAA は 1 人か複数か。」確かに SAA、副 SAA だけだと大人数の場合統制を取るのが大変かもしれませんが、大東 RC の場合はどちらも一人ずつしかいませんが、親睦委員の人たちがお手伝いをする事になっています。二人いてもいいのではないかと思えますが、大体は親睦委員がお手伝いする形となっています。

14 番目「副の翌年は正になるとは限らない。」実は大阪 RC もそうだと聞きましてびっくりいたしました。幹事の翌年は副幹事になり、幹事を助けるという発想もあるかもしれませんが、大体、副幹事をして翌年幹事をする。また地区の委員会制度は、委員をやって、1,2 年後副委員長をやり、次に委員長をするという形が多いです。この細則の中には「できるだけ、1,2 年継続してやってほしい。」と書かれています。私の受けたカルチャーショックというのは、あるクラブにいったとき、去年は副幹事だったのに今年は全然違う立場にいる。去年は副委員長をしていたのに、今年は全然違う

人が委員長になっていたことです。何かマージャンパイをかき混ぜたように全然去年の組織と今年の組織が違ふ。会長になれば、独自の内閣をつくり、来年はまた全然違ふ内閣をつくる。これは規定にはないのですが、そういう形のクラブがずいぶんありました。総じて不勉強な人が多かった。

そして、最初の日に行きましたら、SAA が、「ちょっと新米ですいません。」と3回も4回もとちるのです。去年副 SAA をやっているのだから、一年間勉強したのに何をしているのかと思ってきいてみたら、去年は副 SAA ではなかった。別のところから突然に SAA をやるので戸惑うのです。だから一年間副委員長をやって翌年委員長をするという形が必要ではないかと思いました。私自身一番勉強したのは副幹事のときです。その一年間に海外のロータリークラブあちこちまわって、よい制度を学んできました。そして幹事の翌年は大東 RC ではロータリー情報委員長ですから、そのときに「おもしろゼミナール」というロータリークイズをやりました。また会長の翌年の規定委員長の時にその続編をつくりました。こういうことができたのも副幹事のときに勉強させてもらったお陰だと思っております。だから「副」のあとに「正」をするという形ですると、一年間勉強ができ、その間に自分が「正」になったとき

に何をするか考えてできるのです。だから会長が変わるたびにマージャンパイをかき混ぜたように全部違より、「副」が「正」になるようにした方がよいのではないかと思う。ロータリークラブの細則第7条第2節には継続している方が好ましいと書かれている。兼務しても継続ですからこれは入れておくべきではないかと思えます。

15 番目「副委員長は誰が選ぶのか。」副 SAA、副幹事、副委員長は誰が選ぶのか。会長が全部決めていた。できれば、来年会長になる会長エレクトが決めることにしておけば、自分の年度の時に自分の思い通りの内閣ができるのだから問題ないと思えます。度々がらっと変わるのは大阪 RC もそうだと聞いて、一番の先輩ロータリークラブがそうだったら、皆そういう感じになってしまうのだろうと感じました。大東 RC は大阪東 RC が親でして、委員→副委員→委員長という形になっています。3年間あれば色々分かるようになる。先ほども申しましたように兼務でもいいのです。要は長年にわたってやっていると経験が豊富になる。あちこちの役をやればそれだけ色々なことがかじれるのではないかといわれるのですが、クラブ協議会ではいきなりその役になった人たちの勉強不足を私は感じました。決めてはいけないのですが。

16 番目「職業分類、ロータリー情報委員の3年制はどう選ぶか。」これは選び方がわからない。これは手続要覧の細則に載っている3年委員。3年委員の言葉がありながら、その使い方がわからない。これはベテランのクラブでもありました。親クラブがしっかり教えていないのではないか。大東RCの場合、ロータリー情報委員は直前幹事になると決まっていますから、逆にさかのぼっていくと、委員としては副幹事がやるのです。副委員長は幹事がやるのです。もう一つ大事な職業分類。会長の翌年に規定委員長をしますけれど、委員→副委員→委員長という流れで会長がなさればいいのです。2年しかやっていなく、違うところにとばされたり、また去年の資料を見ると並び方が規則通りになっていない。こういうのはすぐにばれます。3年委員制度の意味が分かりませんでしたと幹事がいうのですから困ります。重要なことは3年。またこの3年制度が他の委員会の制度にあれば、よりロータリーに精通される方が多くなるのではないかと思います。

17 番目「会員少数なので、副委員長制は敷かない。」敷かないといいましても、兼務でいいですから、「副」をする。「来年はあなたです」という心の準備をするために。「副」がいやなら「〇」だけでもつけてくださいといったこともあります。「いや会員数が少ないので副

委員長制は敷かない」といわれるのですが、次は誰が委員長になるかというのは、先ほど申しましたように、会長エレクトが決めておいた方が良くと思います。

18 番目「クラブ協議会、クラブ討論会は年何回が適切か。」今日お集りの方々は「そんなことはありますか?」と思われるかもしれませんが、現実にはクラブ協議会、クラブ討論会の意味がわからないというクラブがありました。これを一から指導してまわりました。クラブアッセンブリー。これは地区協議会があった後の 3 週間以内にやること、新年度の第一例会後にやること、ガバナー公式訪問の 2 週間前にやること、ガバナー公式訪問の当日、今は補佐がありますからそれでもいいですが、下期の初めにやること、地区大会の終了直後にやること、以上 6 回やる。この意味がわからないというのが案外ありました。それからクラブフォーラム、クラブ討論会を見せて頂くと、クラブ協議会的なことをやっていたり、テーマを何にすればよいか分からないといわれたりしました。クラブフォーラムは皆さんが御存知のように四大奉仕、青少年奉仕を加えることもあります。フリートーキングでなければいけないのに、そのようにしていないとこともありました。

19 番目「クラブ討論会と情報集会（炉辺会合）と

合体できないか。」情報集会のファイヤーサイドミーティング（炉辺会合）は例会の終わった夕方に皆で集まるのですが、今は仲良しクラブ的でメンバーが固定されている。テーマがフォーラム的なことを決めてやるのだったら、いっそうのこと例会のすぐ後にやればいいのではという声がありました。今年の会長は新しい方針がとられていて、例会の後食事をして、あと少し時間を延長して、炉辺会合的なことをしている。皆が残って、夜の例会にしてやる。テーブルごとにディスカッションしたことを前に出て発表するという形をとっています。情報集会がなにか人数が限られていて、来て欲しい人たちが来ないという場合、強制的に来て欲しい時は例会を夜にしまい全員です。そういう例会もあってもいいのではないかと思います。

20 番目「年会費の中にロータリー財団・米山奨学・WCS 寄付金の人頭分担金が含まれている。」これはカルチャーショックを受けました。ロータリー財団委員長をしている時は「寄付して下さい。寄付して下さい。」といってもなかなかだしてもらえません。だから確かに最初の年会費の時に同時にこれらを徴収すれば楽です。そしてこれが会社の経費で入れているクラブが現実にあるのです。そうするとポール・ハリスフェロー賞をもらったといっても、身を切っているわ

けではなく、会社が払っているのです、自慢できません。米山功労賞もそうです。でもそのようなクラブが多いので。反対に全然出していないクラブもあります。これは会費の中に入っている。決算書を見れば、収入の中に会費。支出の方にロータリー財団、米山が記載されて地区に納められている。これで会費から出されていることがわかります。そういうクラブは15万とか会費が高いです。米山の場合は年間2万円(5000円+1万5000円)それからロータリー財団は人頭分担当金大体100ドルつまり1万円。これだけで3万円アップです。WCSの5000円までいれているところもある。大学教授のように個人がだしているのは問題はないが、会社の経費で落としてしまっているのはどうかと思う。

21番目「ニコニコ会計は一般会計に加算して単年度で使い切るか別会計でプールするか。」これは両方ありました。年度が終わったら残金を全部一般会計に移しかえるところと、寝屋川ロータリーのように会計が別々になっており、ニコニコだけの会計。寝屋川ロータリーの場合奉仕はあまりあちこちせずに、継続、継続です。しかし会計を見たら累積2000万円あったのです。去年はロータリー百周年でしたので、そのうちの800万円を使って、寝屋川駅の裏の川に、太陽電池を使って川の水を浄化するポンプをつけました。大東は川

の下流ですので、最近川をみると鯉が泳いでいました。寝屋川ロータリーのおかげです。2000 万円余っていたから出来たことです。だから何周年記念といえ、大金が出せるわけです。普段はけちけちしながら、一般会計にも入れないで、そのままプールし、特別な時に使う。使い切るのではなく「貯める」という制度もよいと思いました。

22 番目「会員数 50 名以下で例会場がホテルの場合は年会費が高い。」もちろんそうです。会費が高いから会員が集まらない、やめていく。それならば公民館や集会場などに移した方がよい。大東は市民会館でやっていますから、会費は 12 万円です。

23 番目「事務局はパート採用であるクラブ。」実は大東 RC の場合事務局員一人に対して年間 297 万 9600 円（ボーナス、通勤費、福利厚生費などを含む）大体月に 25 万払っていました。ところが大東中央 RC は 8~9 万円でやっている。時給 800 円で雇っている。そこで石丸さんらが改善委員を作って、今までの人にはやめてもらい、今は時給 850 円でやっています。今回の方はパソコンもできる。英会話もできます。だから GSE できたらこの方が通訳をやってくれますので、今まで雇っていた通訳は不要になりました。また今まで印刷場に出していましたが、自分達で週報も作れるように

なっているのでよいことづくめです。経費もかなり安くなりました。守口イブニングクラブのところは会員の中に美術スタッフがおられて、その方が中心となって、デジカメも使いますのでカラー写真まで載っている立派なものが出来ています。だから会費の高いところは一度事務局を見直す。事務局にまかしばなしはだめです。

24 番目「週報はクラブ事務局で作成している。」これは先程のべた通りです。

25 番目「社会奉仕事業は単年度か継続か。」継続でしたら何も考えなくてもよいこととなるが、やはり先程申しましたように副委員長のときに何が必要か色々考えて、そして自分が委員長の時に実行していく。また「地区同額補助金」をもらおうと思えば、前年度3月3日までに出不さいといけないので、自分が委員長の時に実行しようと思えば副委員長のときに準備しておかなくてははいけません。前年度に右にならえというところは、何もせず、答弁もしどろもどろでした。

26 番目「ロータリーの奉仕活動は I serve か We serve か。」これのいい例が、私の地区の枚方 RC と枚方葛 RC が 50 万円ずつ出し合って 100 万円として枚方市に希望するものは何か聞きに行きました。すると「東海道 53 次というが本当は 57 次です。船の形のモニュメントを

枚方市駅の前の公園にに建ててほしいというものでした。これは We serve です。ロータリーは I serve。ライオンズは We serve といいますが、「お金がある。それを何に使うかお伺いをして、それに使う。」これが We serve。先ほどもいいました枚方 RC と枚方葛 RC でともにお金を出し合って 57 次の道標を作ったのは、We serve の典型的な例です。ポリオプラスのように、ワクチンがあれば、小児麻痺がなくなると思い、一人の力ではできないが、この指たかれのように皆で集まり、世界中でやっていく。これが I serve です。

27 番目「ロータリー財団、米山奨学寄付金徴収は自主的か強制的か。」強制されるものではなく、自主性だとおっしゃいますが、ガバナーがいつも人道分担金 5000 円、特別が 1500 円、年会費が 20000 円それからロータリー財団に 100 ドル以上。この 100 ドルが 100 ドル以下ならすごく目立つのです。私どもの 11 クラブのうち 3 クラブがはるかに少ない金額でした。100 ドル 1 万ちょっと、1 年間で 1 万ちょっとだかた出して下さいと頼んだのです。こんなことをいうと怒られるかもしれませんが、200 ドルも出さなくていいのです。100 ドルでもいいのです。競わなくてもいいのです。これは強制ではない。これはガバナーの方針ですかと聞くと、RI からと聞いて、仕方がないと思いました。一人 100

ドル出して 2660 地区だと 5000 人ぐらいとすると 50 万ドルをロータリー財団本部に出す。それを 3 年間貯めて、金利を運営し、そのお金の 6 割を地区へ戻す。50 万ドルとすると 30 万ドル。一人 25000 円の奨学金に使えば 10 名ぐらいに使える。人道的プログラムに使う。そのうちの 40%はWFという形で GSE に使ったりする。そのうちの一部を地区に渡す。30 万ドルの 20%は（6 万ドル）は同額補助金としてWFから地区に戻ってくる。このお金を奨学金に使うのではなく、地元の社会奉仕に使ってよい。この制度をうまくつけてクラブは金を出すばかりではなく、もらってくる方をもっと考えたかどうかと思う。この戻ってくるお金を使って社会奉仕をする。

28 番目「WCS はクラブ独自か地区に供出しているか。」例えば 40 名会員がいる場合、人頭分担金は 5000 円ですから 20 万円集まる。その 20 万円を地区に出す。地区に出すとクラブ独自でするよりは楽です。しかしクラブ独自でやった場合、地区にお願いをすると地区の同額補助金が出ます。だからここで 40 万円になる。例えばそれが台湾だとすると、台湾の方も 20 万円、台湾の姉妹クラブも 20 万円出せば、80 万円になる。だから私のクラブは 20 万円しかないというけれど、実は 80 万円になるのです。これは発展途上国では 200 万円ぐ

らの価値のある金額である。以前インドネシアで手動の井戸ポンプを寄付したら大変歓迎されました。それをロータリー財団にいうと、クラブが20万円出した場合、10万円の補助金が出る。地区が仮に20万円出せば、20万円の補助が出る規定になっている。台湾の方も同じ出る。つまりロータリー財団から60万円がおりてくる。どうですか。最初20万円の原資が呼びかけてすれば、大きなお金になる。そういう制度を利用しなくてははいけません。地区に任せるのではなくて、ちょっと努力してみる。申請すれば交通費も支給されます。規則がかわっているので、クラブが20万円でも30万円でもときもあります。お金を出すばかりではなく、もらってくることも考えればよいと思います。

29番目「地区同額補助金を申請しているか。」ダメだと思わずにどんどん考える。これはDDF、その他に20%の6万ドルはそれぞれのクラブの周辺の社会奉仕にも使ってもよい。地区にお金が戻ってくるのだから、活用すべきだと思う。

30番目「意義のある業績賞を申請しているか。」自分が会長、幹事のとき何か賞をとることを考えてやってください。他のクラブはあまり考えていませんから、いけます。私の場合、幹事の時に「意義ある業績賞」をもらいました。そしてその4年後会長の時にまた申

請をすると、厚かましいといわれつつも「副意義ある業績賞」をもらいました。RI 会長賞なら少しもらえます。目標をもってください。これは「副」のときに、一年間ある会長エレクトのときに準備しておいて会長のときにさっとする。こういう形でやればいいのではないかと思います。

これで 1~30 までお話をさせて頂きました。後でフリートキングとなりますが、11 クラブでもいろいろあるのだから、2660 地区は 86 クラブあるのだから、また違ったことが分かるのではないかと思います。またシカゴに一つしかなかったのが、百年間にこれだけのさまざまな運営の仕方があるというのがわかったのだが、その一つにロータリーは何をやってもよいというのではなく、ルールがある。ルールの一つにこの手続要覧をみってみるとロータリー章典というのが出ている。これは何か。503 ページほどある。すべて英語で書かれている。これには細かいことがたくさん載っている。英語のできる人たちはこれを最初に読んでいる。日本人は英語が苦手なものだからおろそかにしている。だからぜひこのロータリー章典を関西ロータリー研究会で取り上げて欲しいと思います。それからもう一つ、ガバナーは RI 会長や地区の方針を話される。ガバナー補佐

は、私の場合、今回は運営上の問題を見てればよかった。しかしガバナー補佐ができたので、地区リーダーシッププランに基づいてできたが、今度は地区ではなくクラブでリーダーシッププランをRIは推奨している。そうすると、これが今後ガバナー補佐の任務の大半を占めると思う。綱領が四つ。クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕について書いてある。青少年も五大奉仕に入れようとしてもなかなかいられない。なぜなら、いれると綱領から全部変えなくてはならないからだ。しかし今度のリーダーシッププランでいくと、今までの四大奉仕ががらりと変わって、会員増強のための広報、ロータリー財団、米山はどうするか、会員組織、奉仕プロジェクト。四大奉仕が同じ小委員会になってしまう。大きな組織は会員組織、奉仕プロジェクト、ロータリー財団、広報、クラブ管理の5つになってしまうので、綱領から全部変えなくてはならない。小さなクラブはこの方が兼務がなくてよいかもしれない。関西ロータリー研究会でもこのクラブリーダーシッププランを取り上げ、早く知っていただくと、役にたつと思います。これで私の話を終わります。御静聴ありがとうございました。

フォーラム

[井上]

2660 地区のクラブ奉仕委員長を仰せつかっています井上（東大阪東RC）でございます。ただ今大川さんのお話を聞きまして、かねがね大川さんと討論しようじゃないかと申しておりました。今のお話の中で、大川さんが担当されました11クラブのなかでの30項目がありましたが、私が担当するのは全地区の86クラブの現状と大川さんのお話の補足説明、また若干の反論をしたいと思えます。後の討論の対象にさせていただければと思えます。まず今私たちが取り組んでいるのは大川さんもお話したようにクラブリーダーシッププランです。全地区の会長、ガバナー、ガバナー補佐を集めてどう取り組むか。2650 地区など近隣地区はどう取り組んでいるか。大川さんのお話の最後にこれは大変大事な問題であるとおっしゃいましたけれど、今後の我々の行く末にかかわる問題です。

RIは101年に向かって、安定と成長と繁栄だ。そのためには各クラブ主体でクラブリーダーシッププランを検討するようと言っている。そのための背景となる情報等実際に検討する機会をこの関西ロータリー研究会でもってほしい。田中毅さんなどを講師によんで

研修をやってほしい。当地区におきましては、ガバナーがかねがね言われております。これは私たちの活動計画です。ガバナーの為に作るなど。私も3年前から各クラブに言っております。7月1日に各会員に手渡しできるように作って欲しいと。ガバナー、ガバナー補佐がくるために作るのではない。だからここにガバナー、ガバナー補佐訪問を記録として書いておりますが、そういう記録は一切要らない。皆さんの会社でいえば、営業計画だから。そうならばどういうふうに作成すればよいか。PETSが終わればRIや地区の方針が決まる。それに基づきまして各クラブの会長の次年度の方針が理事会で決まります。

その段階で各フロアーは切り株を作成し、各委員会に計画書を出す。そして連休明けにまとめて、6月に印刷する。こうなれば皆さんの各クラブにおきまして、6月決算、財務報告ができるはずです。だからこれらを切り離して各クラブで、6月締、7月締、8月の理事会で決めてここに追加すればよい。そしてもっと簡素簡潔にすればよい。各クラブが大変分厚いものを作っています。見ると一年間のいわゆる年次報告が詳細に書かれており、費用もかけています。そういうことは一切やめる。簡素簡潔に。定款・細則を頭の中に入りきれないし、変化が激しいので、実はここの後ろに綴じ

込みをしています。理事会や協議会にもっていくので。だからこのようにするように地区として推奨している。一度してみてください。作ることが目的ではないのです。3年ごとに定款による改正もありますが、クラブの現状にあるように、細則改正をどんどんやっていく方がよい。

そうしなければ、2007年の規定審議会への各クラブの提案はどうしますか。2007年の規定審議会に提案してRI自身を変えていかないといけません。RIと日本の動きは違うと、温度差があるといっていることは、どんどんRIに、規定審議会のチャンスに提案してもらう。今度私の地区から吉川さんが出席しますが、もう準備をされています。ですからどんどん提案して。また他の地区からの良い提案に賛同して3,4地区集まって改訂しようじゃありませんか。RIに提案し、RI自身を変えていこうではないか。ただ決められたことを、定款だ、細則だといって守るような川下の時代ではないことを今日皆様と考えたい。財団も同じです。今回日本財団ができました。お金を日本財団に出して、それからロータリー財団に出す。出す以上は言うことは言いますよという時代にきています。

組織によっては日本中心にアジアのいわゆるロータリー原理主義者かどうかしりませんが、R I B Iのよ

うな中間組織が将来的にいいのではないか。というようなことが検討されるぐらい積極的にこれからRIに提言する時代がきているのです。

その中で我々の地区といたしましては、ガバナーはとにかく皆さんとクラブの為に。これはしきりに言われていることだけここで御報告いたします。ただ残念ながら大川さんからも御報告がありましたようにまだそういうところが徹底させていないというところは、我々どもに責任があるわけで、今後もう一度各クラブと協力させて、共同作業をしていきたいと思えます。

もう一つ、先程申しました直前会長の扱いの件です。これに関しては大川さんと意見が異なります。今回のCLPの中でも見て頂いたらわかるように、従来と違いプロジェクトの継続性、指導の一貫性をやかましく言われてきました。特にクラブの指導者についてはCLPの中では元、現、次年度の指導者は一体になって協力する。長期の目標の中で単年度の目標を設定し、協議し、親睦を図るといったいろいろな項目がある。

さらにクラブの委員会につきましては、直前、現、次年度の会長、エレクトがいっしょになってクラブの継続性と事業の発展を考えるということで、従来の我々の考え方というのではなく、新しい動きの中でこの問題を考える。私のクラブでは直前会長は逆に理事

としてでていると緊張感がでます。去年はどうしましたと聞くと、たちまちその内容について説明をする。その上でその結果がどうでしたかと聞くと、反省する点、改善する点が浮かび上がってくる。だから院政どころかものすごく緊張感がある。前もって理事会のテーマをみて、前年度に触れることは謙虚に反省し、今年度にかすというわけですから、これも私は院政になるような雰囲気なら、それを改善する。

そういう時代に来ているのではないかと思います。だからその辺がやりにくいとおっしゃっていましたが、そのやりにくさを現実はどうかもしれません、それを受け止めてやはり院政のようなどころもあるでしょうが、それを改善し、新しい時代のロータリーを考えていくべきではないかと思います。その他に委員長制、副委員長制の問題。これもクラブによっていろいろです。会員数が20～200名のクラブまで色々です。確かに大川さんが言われるように副から委員長へでは仕事の内容はうまく受けとめられる。しかし現実はどううまくいきません。だからそれはそれとしてクラブの現状を受け入れる。だから何も副委員長でなくとも、2.3年前に親睦委員をしていた人が委員長をしてもちゃんとやっていけるのです。それから継続性を考えてマニュアルを作る。委員会の活動の質を落とさない。その

ためにマニュアルを作って、引き継ぎの徹底を図る。だから私は副から委員長というのは各クラブの現状に任せていいのではないかと思う。86 クラブそれぞれの意見があると思います。

それから大川さんがとてもよいお話をしていました。が、パートの問題です。最近非常にパートが増えまして、極端な例では7月の初めに事務局が交代して、パートでと、引き継ぎはほとんどありませんと。それらの現状をいろいろお聞きした上で、私たちの地区2660地区クラブ奉仕委員会ではこういうものを作成いたしました。クラブ事務局執務ハンドブック。これを見て頂くと各クラブは個々の業務がありますけれど、上段は一般的にロータリーとして必要な事務局の仕事が網羅されている。そして個々のクラブ特有のお仕事は追加として書かれています。

こういうハンドブックを作らないと、事務局のパートが替わるのはよいが、支援する方法を地区としてもいろいろ考慮しないといけない。こういうことも情報の交換でよろしければ各地区からおっしゃっていただければ、いつでも交換させていただきます。それと一番最近使わせて頂いているのが2650地区で作られた立派なロータリー情報集マニュアル。昔我々も作りました。

「御存知ですか？」というのを5,6年前に作りました

が、それを改訂して欲しいという声があるが、恥ずかしながら、それだけの実力が無い。人手と時間とお金がかかる。だからこういうものを利用させて頂く。一冊 1500 円。地区の委員会全員に購入して頂いて、各クラブに購入するように勤めております。お恥ずかしい話ですが、手続要覧もクラブ奉仕委員長の名前で回覧にて 714 円で全員購入するように勤めております。

手続要覧はポーンと各クラブの事務局にくるのです。事務局が忘れると、そのまま事務局が忘れとだめですね。事務局が手続要覧がきていますとお知らせをすると買われる方もいらっしゃいます。今回は特に改正をされましたから、これがないとクラブ運営も地区運営もなにもできない。これがなければ 2007 年の提案もできない。だから定款・細則は身近に絶えず目を通す。そしてこれは各クラブで交換しています。他の人に見ていただくと、おかしいところなど指摘してもらおう。情報を交換する。他のクラブのいいところは取り入れる。例えば、文章保存規定がないところは書類の山になっている。20 年、40 年と書類を置いている。そういうところは 10 年、7 年と文章保存規定を作りどんどん捨てる。以上説明、提案させていただきました。

[岡本]

大阪城南 R C の岡本です。最初に日本のロータリー

で一番欠落しているユーモアのセンスを多分にお持ちの大川さんや大東ロータリーに敬意を称したいと思います。郵政内閣から始めたいと思います。内閣が替われれば、民主党になるかどうかはわかりませんが、がらりと変わります。だから一つの内閣によって、政策の継続性というものがどうも消えてしまうことがある。

このことは私どものロータリークラブ、個々のロータリークラブでも同じことです。更に悪いことに単年度である。これがRI サイドですと、いろいろな記録で残されたりするのですが、個々のクラブの場合は消えてしまう部分がある。せっかく会長が色々な提案に基づいて改革が行われたと思っても、次の会長のときに消えてしまう。そういうことの積み重ね。それから少し飛躍しますが、必ずしも個々のロータリークラブで透明性があるわけではない。不透明な部分もある。このことについて、一端政権をとってしまえば、それに従え、今はこうなのだとなってしまう。こういうことを是正するためには、私のクラブでも理事会の内容を各会員に知らせるといった試みがなされたこともありました。それで今ではそういうことがありません。

非常に封建的だった徳川幕府のときでも目安箱という制度があって、民意をくみ上げることが行われました。徳川政権すべてを通じてです。だからある程度理

事でない一般の、例えばいろいろな疑問を持つ新しい会員でも、色々な質問をフォーラムだけでなく、内閣に提出するという制度も良いのではないかと思います。非常に透明性の高いクラブもございしますが、透明性の低いクラブもございします。大川前ガバナー補佐がいろいろ苦心されているのは、RI というもの、これは国際的な組織でございますけれど、そこからどうしても右や左にぶれていく。それをまた RI の一つの枠組みに戻すという仕事をなさって、成功されたと思います。どうしても日本のロータリーは日本的な方にぶれます。地区なり、ガバナー補佐が、ロータリーの日本化、これは良い意味も悪い意味もございしますが、枠組みから大きく逸脱させないような指導を今後ともお願いしたいと思います。それから質問事項で、先ほどおっしゃっていましたが大東 RC の場合の会報、週報の一回分なり、一年を通じてどのぐらいの金額になるのか、それからパートを非常に今活用されているということですが、大東 RC の場合は事務的経費が月間でも年間でもよろしいですからいくらぐらいになるか差し支えがなければ教えていただきたいと思います。

[大川]

事務局員の給料は一ヶ月 9 万 2000 円の 12 ヶ月です。合計 110 万 4000 円。ボーナスは 5 万円が 2 回。それが

ら福利厚生費が10万円。時間外その他が5万円。トータル年会費は135万円です。それから印刷の件ですが、これはすべてパソコンでやっていますから、外部には出していない。印刷代は80万円ぐらいです。ホームページ製作が20万円。ホームページの管理費が20万円。トータル120万円で、一ヶ月10万円。

[小林]

守ロイブニングRCの小林と申します。私のクラブは出来て4年で、今ごろ物心が着きまして、わいわいいろいろなことが噴き出て参りました。私は今年幹事で、わからないままなのですが、先週の理事会で、理事会の構成員は役員が5名、理事が5名、直前会長とで11名います。その理事会をやっていたときにJCから来られた方が3人ぐらいおられて、JCでは役員は議決権をもっていない。理事会に出てくる役員はオブザーバーできているので、理事の人しか議決権がないのではありませんかと、会長は議決権がないのではないのかとかいう話がでましたので、そのことについて教えてください。私は次のように考えています。ロータリーでいえば、役員と理事と合わせて全部が理事会の構成員で、全員が議決権を持つ。そして会長は議長ですが、会長自身も議決権を持っている。

[大川]

その通りです。副 SA と副幹事はオブザーバーで議決権は持っていません。

[小林]

これは私どもが今年作った事業計画書と定款・細則ですが、先ほどこれは一冊にされるとよいですねといわれていましたが、私どもはずっと一冊でやってきましたが、新しいクラブなので、皆さんの意見で何回も細則が変わる。その度に印刷文が無駄になる。だから今年全部を薄い紙に替えて、そして印刷するのをやめました。このように 7 月 1 日に渡した事業計画書、定款を作成し、細則は変更し、ばらばらにお渡ししました。

[大川]

改正になったらその部分だけインターネットに替えておけば。

[大澤]

要するに細則は毎年でも変えられるから毎年作る。定款は中身が同じだから 3 年に 1 回でいいのではないかということですか。小林さんところは別冊にした。これでもいいのですね。

[大川]

はい。ただ印刷は印刷屋に出さなくて内部でやると

安くてよいと言いたいのです。

[井上]

守ロイブニングRCの定款の第9条の第4節をご確認いただければよいと思います。これは世界共通のことです。後は幹事、会計、会場監督は理事会のメンバーであってもよいし、なくてもよい。これは細則で決める。

[吉川]

2660 地区のバスターガバナーの吉川（東大阪東RC）です。私は研修の副リーダーということで、今日は各クラブをまわられたときにその内容について少しでもヒントになることがあればということで出席させていただきました。もう一つは昨年5月に行われました国際大会でございますけれど、お蔭様で皆さんのご協力のもと無事成功で終りまして、一週間前にロータリーの東京事務所から連絡が参りまして、大木さんのお話では昨年のお阪での国際大会は4万5千300という数字を最終の人数であるという報告がありました。このご報告をすると同時にお礼を申し上げたいと存じます。

そして今年のシカゴでは人数は、完全な数字は出ていませんが、なんとか4万少々ということでした。過去27年前に東京で行いました国際大会は3万9千名で、これが世界の記録でしたが、どうやら関西の国際大会

が今後の記録として残りそうである。せっかくこの数字をだしましたけれど、シカゴは6万人集めるとおっしゃっていましたので、一年天下で終るのかなと思いましたが、その心配はなかったということです。それからもう一点、先ほど規定審議会のお話が出ていましたけれど、2007年シカゴで4月に行われます。私は行く予定にしておりますが、地区のクラブ奉仕委員長の井上さんからいろいろ各クラブの方へお願いをいたしておりますけれど、当然各地区の皆さんの方にも連絡がいくと思います。毎年決議案、制定案の数が膨大になる。だからこの2007年は一地区5件に抑えてほしいということをやめご記憶願いたいと思います。また日本財団の話もでておりましたけれど、日本財団は現在既に設立されています。ただし今回設立させています日本財団はあくまでも対税金とのかかわりの中で設立されたもので、それとは別に国際大会で余剰金が一億ほどでしたので、その一億を現在東京の岩井さんの方にお話をいたしまして、日本でプールをして、先ほどのようなように、日本で集めたお金はそのままRIにいくのではなくて、日本で十分検討して送るような形をいずれとりたいと思っています。以上ご報告だけさせていただきます。

[大澤]

事務局をパートに替えるにときに、今までの人をどのようにすればよいかヒントを教えてください。

[大川]

さきほど石丸さん（大東RC）がおられましたが、石丸さんが本年度会長になることがわかっていましたから、副会長の時代に、経費削減委員会をやりました。ターゲットを事務局一本に絞ってやっておりました。先ほどいいましたように、コンピューターはできないし、交通費も高かった。印刷所に出すとこれほど高いとか色々な現状をみせました。そして皆で議決をして決めてしまいました。

[大澤]

前年度から続いての作業でしたね。

[大川]

そうです。どちらがどれだけ安く済むかということです。現に大東中央RCは、事務局が大東RCの隣でしたので、会場費は同じですが、事務局費が全然違う。大東中央RCは、時給800円でできていたわけですか、大東RCは30万近くかかっている。これはおかしい。内容もベテランだから仕事はさっさと終わり、週に4日のところを2日しか出ずに、連絡しようとしてもほ

とんどが留守番電話でした。そういう不満があちらこちらからでていましたのでね。

[井上]

最近の事務局の採用につきましては、注意しなければならない点があります。それはお互いの事務局同士の情報の交換もありまして、賞与、勤務時間、土、日に行われます IM、その他に出た場合は代休をとるのか、時間給にして給付するのかなど、そういうところの情報が非常によく伝わりますので、各クラブの分幹事会で情報をよく交換して、世間相場とかそして当局からの調査とかをするのもよいでしょう。

そこまでいかなくても労災の問題です。勤務の途中で事故が起こったと、すると当然クラブの責任となる。だから健康保険、労災、その他、自分の会社で女子社員を一人採用すれば、何が重要かということ、各クラブの会長、幹事がよく考えて、今の時代に則した待遇を、ただ時間給で採算がいいというだけではなく、そうした健康保険を含めて近隣クラブの状況をよく聞いた上でご検討していただければと思います。

[小林]

事務員同士の情報の方がもっと早い。

[豊岡]

2640 地区富田林 RC の豊岡と申します。私は今年度、

社会奉仕担当の理事なのですが、ロータリーに入ってからまだ3年目です。あまりよくわかっていないところはありますが、私がロータリーに入らずに思っていることがあります。今日のお話を聞いてもルールがとても大切ということはよくわかりますが、私のクラブはルールの細かいところでいろいろな議論がありまして、特に以前ロータリーの生き字引のような方がいらっしやいまして、手続要覧などは全部頭に入っている。その方とパストガバナーといろんなところで喧喧譁譁とやりあう。どうもそれがクラブの雰囲気悪くしているのではないかと。最後にもめたのが、台湾の姉妹クラブの方々が私どものクラブに来る時に、台湾の旗を右に掲げるか、左に掲げるか、これでとてももめたのです。結局、私どものクラブが台湾に行ったときどうだったか聞いた時に、日の丸は揚がってなかったという感じでした。結局その後そのベテランの方はクラブをやめました。ルールは大切ですが、あまり枝葉末節のところでもめるのはどうかなと思います。その辺はどうあるべきか教えていただきたいと思います。

[大川]

反対にルーズになってくるから、ルールを守っている人たちがやめていくのです。今やめていく中でそういう真面目な人が多いのです。ある程度拘束されたほ

うが良いのではと思います。私のクラブも70名でしたが、55名になってしまった。今の若い人たちのやり方に不満で真面目な方がやめている。仲良しクラブだけではいけないと思います。

〔豊岡〕

日本のロータリーがルーズだという話を聞きましたが、私は海外のクラブに行きまして、日本のロータリーの方がしっかりやっていると感じました。例えば韓国のあるクラブにいったとき、本当にセレモニーだけなのです。会長の話や卓話の時間もない。後は飲み会をするだけ。アメリカにいった時もとてくだけでいて、これでいいのかなと思いました。その辺はどうでしょうか。

〔大川〕

世界に行けば、そうかもしれません。ただ11クラブだけでもこんなに差があるのだから。最初はカルチャーショックだったのですが、あれもあり、これもありなんだと容認しないと身体がもたないと思うようになりました。だから私はこうでないとだめだとはいいません。確かに私もアメリカに行きまして、当時のお金で800円で食事を自分で払い、わいわいっており、いつ始まるのかという感じで、終わる15分前に会長が少しお話されて終わりでした。そういう業種交流

をしているというところかもしれません。入る時に一ドル払って抽選会というところもありました。しかし肝心のルールは守っていると思います。ただ毎回の例会のやり方はいろいろあると思います。ロータリー章典をきっちりとやっている。日本はロータリー章典の内容が分かっていないので根なし草なのです。それがわかっていて勝手なことをやるのと、わかっていなくて勝手なことをやるのは違うと思います。大東 RC の場合はこれ以上ルーズになれば、やめていく人がたくさん出てくると思います。しばられてよいという人といやだという人がいる。これは永久の戦いなのです。ルールを知ってアレンジをすれば良いと思います。

[中田]

堺 RC の中田と申します。海外の例会の話が出ていましたが、私は数少ない海外でメイクアップをした者です。経験からお話させていただきます。今年度は 5 月にバンクーバー RC。ここは 92 年の歴史のあるクラブです。2 年前にはその隣のビクトリア RC。ここも 100 年近い歴史のある RC です。その前はエジンバラ RC。ここも歴史のある大変古い RC です。その前はパリ。ここは大変素晴らしい RC で、2 回行きました。歴史のある RC でメイクアップをいたしますとそれなりの内容のある例会をやっている。それに比べて日本の RC の例会の現

状は良くないです。RCの例会は、会員相互のコミュニケーションや情報交換の場であり、あるいは知識交換の場でもあります。二つ目は例会でロータリーを勉強する場でないとならないと思います。そういう勉強の場が現在、日本のロータリークラブは情けないような状態であると思っています。従いまして例会というのは非常に大事であって、内容のある例会の再構築をすることによって、日本のロータリー事情が世界の中で認められて、活性化していくのではないかと思います。

[木越]

大阪西RCの木越と申します。先ほど井上さんの方からクラブの費用の継続性、一貫性について述べられましたが、それについてご質問させていただきたい。もともとこの一貫性というのは、できるだけ長期にわたってを一つの事業を完成しようとする一つの動きが最近出てきた。また会長賞の一つの要因でもあるかと思えます。ただ弊害もないこともない。実は我々のクラブで盲導犬の支援をしています。3年目を迎えましてまだ継続しています。これは分割して払っているのですが、盲導犬というのが一つの縛りになって、他の社会奉仕をもっと気を入れてやろうという意見もありながら、どうしても盲導犬に、一回決めてしまうとなか

なかその枠から出れないと弊害もある。要は継続性という持ち方をどのようにもてばよいか。一貫性の置き方と運用の仕方についてももう少しご意見をお聞かせ願いたいです。

[大川]

さきほども申しましたように、いい意味での継続性はよいが、前年の通りにやるだけだと、何もせずに一年間終わってしまう。同じ継続にするにも去年よりもちょっとずつ進歩しとけばよいと思います。それが全く同じことをやっても意味がなく、プログラムを変えるとか、招待を変えるとか、剣道大会なら模範試合を入れてみるとか、ちょっとでも変化をいれると進歩もある。寝屋川ロータリーは継続するよりも出来るだけ新しいものを入れます。それでどこで打ち切りにするかが問題です。日頃はケチケチ使ってお金を貯めておいて必要な時に大胆にお金を出す。こういうやり方もあるのです。継続ももちろん重要ですけど、切るということ、新しいことを考えることも必要かと思います。

[大西]

福知山西南RCの大西です。継続性の問題ですが、今から21年前喘息児のサマーキャンプを始めました。数年間ロータリークラブでやり、その後医師会の方に譲りました。そして今までに毎年何十人もメンバーが

ボランティアで手伝いに行っています。実は今日から明日にかけて今年のサマーキャンプに行っています。私も明日の朝からお手伝いに行こうと思います。クラブで長年続きますと、先ほどの話にもありましたが、経済上苦しい状態になりますし、他の事業ができない。だからできるだけ参加してくださる組織があれば、そちらに譲り、クラブはそれを助けていくという形で継続するという形がよいのではと私は思っております。

[岡本]

大阪城南RCの岡本です。会員増強の掛け声とは裏腹に会員数は減少しています。大阪でも20名以下のクラブもあります。そこらで先ほどの事務局維持は困難を極めているクラブも多いのではないかと思います。私も長年思い続けているのですが、事務局を民営化すればどうでしょうか。もちろんそれを希望されるクラブだけですけれど。つまりそういうような会社なり、企業なり、事務をしてもらう。パートではできない仕事もあるので、そういう専門家集団で一括して発注する。残りをパートにやってもらう。どうでしょうか。

[北村]

大阪西RC会長の北村と申します。RIの2660地区の今年度神崎ガバナーが当クラブから就任することになりまして、この貴重な時間をお借りして、2660地区の

皆様にお知らせがあります。12月9日10日に地区大会がございまして、各クラブにPRに参りますのでよろしく願います。ありがとうございます。

[大澤]

先ほどメイクアップで外国にいかれた件で、韓国の例が富田林ロータリークラブの方から話が出ましたが、やはりお国柄というのもあるかと思えます。実は私自身シカゴの大会に出席する機会に、シカゴクラブを訪問してきました。それは素晴らしいクラブです。やはり100年のクラブですから。古い建て物の中で400人が朝7時20分から8時半までやっています。大会の3日目の朝のことですが、日本でしたら、世界大会をやっているのだから、例会はやめて世界大会でやりましょうという考えが普通です。特に地区大会の話も出ましたが、地区大会が近くにあれば、それに引っ掛けて自分のクラブの例会はやめておこうというのが最近多い。しかしシカゴクラブは違いました。普段は12時10分から1時半までですが、今回は朝やりました。中身を紹介しますと、ひな壇には会長と当日の卓話者とその奥様、そして幹事の4名が座っておりました。そして7時20分になると会長が鐘を鳴らして、すべて会長が仕切るのです。ソングリーダーだけは違う方が前にでてきて、ご指導なさいましたが、幹事の報告もわず

か数分で、後は全部会長がお話をなさっている。もちろん卓話者の紹介も会長がなさっている。ただやはり当日はそういう世界大会がありましたので、財団のお話を30分間きっちりと卓話がございました。しかも卓話者は何代か前のRI会長でしたから、皆静かに聞いて、誰一人席を立つものもいませんでした。そして最後に出口で幹事から小さな紙をいただきました。それは「あなたは本日この例会に出席したよ」というメイクアップカードでした。最後までいた人しか渡さないと思います。日本のようにご飯を食べてすぐ帰るような人には渡さない。多分あの場所にいたら、皆さん最後までいらっしゃると思いますけれど。きっちりと幹事が一人一人にメイクアップカードを渡しているのには感心いたしました。本当に重苦しい、素晴らしい例会を感動とともに経験してまいりました。ロータリアンでよかったと思いました。このロータリーのバッジをつけていたからこそこの場に来られたのだと感動し、このような感動が得られるならば、得られない方に進んでロータリーに入っていたらどうかと会員増強の考えも頭に浮かびました。それからもう一つ、カナダのケベックへ、こちらは私の計画に初めから入っていましたが、それは世界の例会がどこでやっているかというので調べまして、ケベック東クラブが私の空いて

いる時間帯 12時半から1時半でしたので、行きました。これは地方のヒルトンホテルでやっていました。私は始まる40分前に着いていまして、どんな感じか見ておりましたが、30分前から盛んにロータリアンが入ってきます。そして暑いこともあって、自分のポケットマネーで飲み物を買って、ビール、ワイン、ココーラなどいろいろなものを飲む人がございました。そして大変おしゃべりを楽しんでいました。1週間に1回お会いしているのにそんなに話すことがあるのかなと感じるほどでした。そして12時半になれば、きっちり会長が提唱して、当日のお客さまの紹介、私も呼ばれて、バナレットの交換をしたりしました。そしてちょっとお話をしてくれといわれたので、「堺クラブには女性会員が14名もいます。優秀な女性会員です。」といいましたら、みなさんが「おー」とびっくりしておりました。実はケベック東クラブにも6人いらっしゃり、そして増やそうとムードの中で私がその話をしたもので、あーよかったという雰囲気が出てまいりました。和やかな雰囲気でした。ただ問題が一つありました。私は日本語で話します。連れて行った通訳は英語で話します。しかし現場はフランス語でしか通じない。それで岐阜南の武腰さんが一年間、お預かりしていた女学生のお父様に、私達が行ってから、「すぐ例会場に来

てくださいと、日本からお客さんが来ているから通訳を頼む」と電話を入れてくれたそうです。私の日本語、通訳の英語、そしてお嬢さんのお父さんのフランス語を通してようやく堺 RC の状況をお伝えすることができました。そのお嬢さんは 1 年間しか岐阜に滞在していませんでしたが、日本語が大変お上手です。そして「日本にもう一度行きたい、素晴らしい国だ」とみんなの前で言ってくれた。非常にうれしいことです。これはやはり親身になってお世話した人が岐阜にいらっしゃるということです。このような感激もメイクアップしたおかげで頂いてきた。

今日は細かく 30 チェックにわたるそれぞれのクラブでチェックができるお話をしていただきました。ただ私が感じていることはやはり、ロータリーというのは申し送りが下手なところなんです。聞きに行かないと言いません。自分が終れば知らん顔で、次の委員長が困ります。井上さんがお作りになっておられる、今守口さんが見ておられた事務局のマニュアルでもあのように文章にしてつくっておかれることは非常にいいことだと思います。私は文章で残していくということを是非お勧めしたい。そのためにも大川さんがおっしゃられるいろいろなやり方をチェックしていきながら、新しいロータリーの世界をこれからあと 100 年続けていっ

ていただきたいと思います。これをもちまして第75回
関西ロータリー研究会を終ります。ありがとうございました。

